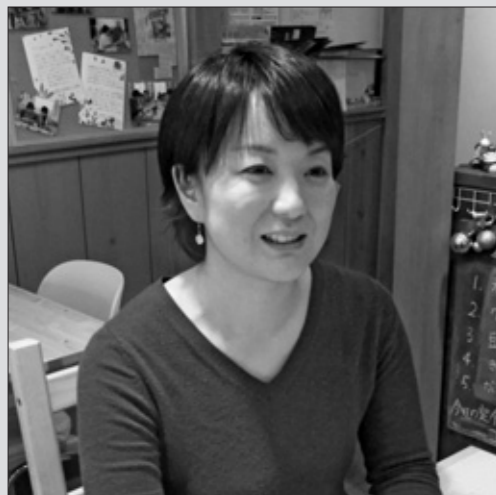


コミュニティカフェ運営による

震災避難者の就労支援

NPO法人 ハイビスカス

理事 大塚 茜さん



大塚 茜さん

避難するママたちがスタッフとして活躍

京都市水族館にほど近い商店街の一角で、古い民家を改装して平成23年秋にオープンした「キッチンNagomi」。おいしいご飯とみそ汁に、野菜たっぷりの5種類のおかずがついたランチが人気です。京都近郊で収穫された米や有機野菜、西日本産の肉や魚など、地元近くの安全性の高い食材にこだわり、2週間ごとに替わるメニューはスタッフ全員で考案。客席20ほどのこじんまりとした店内ながら、2階には座敷席もあり、お昼時には近所の方々や子ども連れのお母さんたちでにぎわいます。

一見、普通の食堂と変わりはありませんが、ここは東日本大震災によって京都に避難してきた子育て中の女性たちの就労支援の場として誕生しました。開店当初のスタッフは、福島県出身7名、宮城県出身2名、関東地方出身2名の合計10人。うち2名は京都に実家があるものの、他8名は慣れない土地への移住でした。また6人が夫や家族を被災地に残し、子どもを連れてきた母子避難者です。

現在、京都府下には震災や原発事故による広域避難者が1000人以上おり、そのうち母子避難者が6～7割を占めるという資料があります。保育所が待機状態のため、抽選にもれて就労できないケースが多々ある一方、経済的な事情や、生きがいを見いだすために働きたいというお母さんたちの声が高まっていました。そんな現状を少



「キッチンNAGOMI」のスタッフ



こだわりの食材で作ったランチ

福祉の向上・子育て支援

しでも解消したいと、「キッチンNagomi」を立ち上げたのが、NPO法人ハイビスカスで活動していた大塚さんです。



子ども連れのお客様に人気の2階座敷

配食や保育の実績を活かして支援を提案

平成15年にデイサービスセンターの給食部として活動をスタートし、17年から京都市の指定を受けて高齢者向け配食サービスを展開しているNPO法人ハイビスカス。

そこで働いていた大塚さんは、お年寄りに日々の食事を運ぶことで、顔と顔を合わせてコミュニケーションを取ったり、健康状態や暮らしぶりをチェックするといった付随の業務の大切さに気がつきます。一方では、自身も子育ての時期を迎え、働きたくても保育所の空きが出るまで待機しているお母さんたちがたくさんいる現状に直面。新事業として保育施設を立ち上げ、運営に携わっていました。そんな時に発生したのが、東日本大震災です。

ハイビスカスでは直後から被災地で子育て支援などの活動をスタート。その後大塚さんは配食や保育サービスで培ってきた経験を踏まえ、新しいプロジェクトを提案しました。まずは京都市に移住する母子避難者の就労を支援するために、保育スペースや労働時間に配慮した飲食店舗を設立すること。次に、そこを拠点として避難者が自立し、京都府民として地域に溶け込めるようにサポートするプランです。

日本初の常設支援サロン

提案が認められ、大塚さんは新たに発足したNPO法人「和（なごみ）」の理事長に就任しました。民間企業などの寄付によって、長年空き家となっていた民家を賃貸契約で確保し、「キッチンNagomi」のオープンに向けて大規模なリフォームを実施。古いお風呂を撤去して、天井を抜いて梁を見せる工事をを行い、厨房設備や電気、ガスを整備することで、機能的であたたかい雰囲気のある飲食店舗に生まれ変わりました。

このスペースは、京都に避難する方々を対象とした生活相談や、さまざまな交流イベントを行なう「福興サロン和～Nagomi～」としても活用することになりました。日本初の常設の避難者支援サロンです。ヨガやベビー

マッサージ、クリスタルボールの演奏会などの多彩なイベントを、フタツツや避難者の方々、店の常連客が毎週のように企画。口コミやインターネットなどを通じて評判が広がり、毎回大盛況です。

食堂やサロンのオープン以来2年半で、大塚さんは生活相談やイベントを通じて延べ3000人の避難者とつながりを持ったそうです。

支援される側から、サービスを提供して喜ばれる側に

当初、10名からスタートした「キッチンNagomi」のスタッフは12名に増え、アルバイトやボランティアを含めて総勢約20名が関わるようになりました。

最初は東北地方ならではの具だくさんのみそ汁を提供するものの、濃いめの味付けが地元の方に不評といった失敗もありましたが、地元の板前さんの協力も得て、試行錯誤でメニューや味付けを改善。しだいに京都の人々に受け入れられるようになり、毎日20食のランチ提供という目標をほぼ達成しています。スタッフが手作りするスイーツのクオリティが高く、カフェタイムの来客も順調です。そこで昨年秋から、夜の営業をスタートすることにしました。京風の和食を中心としたディナーとお酒のサービスで、さらなる利益拡大を目指します。

「支援される側だったスタッフが、今では食のサービスやイベントの開催をすることでたくさんの人々に喜ばれる側となり、生きる原動力と誇りを取り戻しています」と大塚さん。もはや大塚さんたちがスタッフを支援する時期は終わり、スタッフと共に社会に貢献する段階が始まっていると大塚さんは感じています。

事業概要

NPO法人ハイビスカス

<http://www.fucco-nagomi.com/>

代表：理事長 山本 圭介

業種：特定非営利活動法人（高齢者福祉・児童福祉）

創業：平成15年8月 設立：平成17年2月

住所：603-8414 京都市北区紫竹大門町46

やまもとマンション2階

TEL：075-493-1687 FAX：075-874-7148



音楽イベントでにぎわった店内